

第1回富山市総合計画審議会 概要

場所：富山第一ホテル 3階 飛鳥

時間：15:00 ~ 16:55

1 開会

2 委嘱状交付

委員を代表して、岩城 隆宏委員（公募委員）に交付

3 市長あいさつ

市長代理：石田助役

4 委員紹介

5 議事

（1）総合計画審議会会長の選出について

- ・委員の互選により、総合計画審議会会長に 八嶋 健三委員を選出
- ・会長あいさつ

（2）総合計画審議会会長職務代理者の指名について

- ・会長より、会長職務代理者に 宮口 侗迪委員 を指名

（3）総合計画策定方針について

- ・事務局（富山市企画調整課長）より説明

（4）総合計画審議会部会の設置（案）について

- ・原案どおり、5部会の設置を決定
（安心部会・安全部会・潤い部会・活力部会・協働部会）

（5）総合計画審議会部会所属委員の指名について

- ・原案どおり、部会所属委員を決定

（6）各部会部会長の指名について

- ・部会長の指名

安心部会：部会長に 宮田 伸朗 委員 を指名

安全部会：部会長に 竹内 茂彌 委員 を指名

潤い部会：部会長に 中村 和之 委員 を指名

活力部会：部会長に 長尾 治明 委員 を指名

協働部会：部会長に 山西 潤一 委員 を指名

(7) 審議会のスケジュール(案)について
・事務局(富山市企画調整課長)より説明

参考資料の説明

事務局(富山市企画調整課長)より説明

直面する時代の潮流	(第1回富山市総合計画審議会 会議資料 P14~)
富山市の現状	(" P16~)
市民意識調査の結果から	(" P32~)
将来人口推計の結果から	(" P36~)
富山市のまちづくりの課題	(" P46~)

(8) 意見交換

<概要>

(会長) 説明等を踏まえ、新たな総合計画を策定するにあたっての意見・提言をお願いしたい。

意見・提言に対する事務局からの回答等については、後程一括で行います。

(委員) 今後、ますます都市化が進んでいくことが心配である。

合併前の旧富山市では、森林面積は3%、合併後は70%の森林面積を有することとなる。

水もきれいな空気も緑も当たり前であるという考え方ではなく、地球温暖化の問題等や災害対策、クマ対策などの観点からも、森林対策について、しっかりと審議していく必要があると考える。

(委員) 魅力あるまちづくりを根本に考えていかなければならない。

総曲輪の再開発事業で、大和の移転等が予定されているが、せっかく核となる施設ができて駐車場が不足しているのは、人が集まらないのではないかと。

住み良いまちづくりも良いが魅力あるまちづくりを進めるべきではないかと。

県内外から来た観光客に対して、富山市として何がPRできるのか。立山だけでなく、おわら、売薬、水などをもっとアピールし、そしてまちなかの城址公園等の活用、歴史的施設の設置、市内の回遊、海・山の幸、土産物の販売など、観光客の皆さんが「富山に来てよかった。」と思えるように、また、市も潤えるような観光対策が必要である。

(委員) これまで、いろいろな審議会に出席しているが、大半が、事務局の原案を承認する形式で進められているが、「富山の将来を素晴らしくと願い、真剣に審議する。」姿勢で臨んでいきたいのだが。

(事務局) 森林の保全整備については、洪水防止や水源涵養等、安全な暮らしを支える公益的機能の点からも、人工林の枝打ち、間伐などの育林事業が大変重要である。

森林の状態、立地条件、さらには、ボランティアを含む市民との協働による育林など、地域ニーズを反映した多様な森づくりを目指す。

また、それぞれの役割に応じた保全整備の支援策については、総合計画の策定過程での審議会、ワークショップ及びタウンミーティング等で委員の方々等のご意見を参考に検討したい。

(事務局) 城址公園周辺は、市街地において、水と緑にふれあえる貴重な空間である。

このため、城址公園の見直し計画では、公園本来の機能に加え、中心市街地のまちづくりに果たす役割を踏まえ、観光拠点としての機能強化を行うものとした。

周辺の松川べり彫刻公園やいたち川の延命地蔵など、魅力ある歴史・文化・観光ゾーンがあり、市民から観光客までが楽しめる街なか観光の拠点として強くアピールし、観光客誘致に繋げたい。

(事務局) 大和の開店に伴い、30,000人ぐらいが来店し、その約6割が車を利用すると予測すると、約3,000台分の駐車場が必要であると試算されるが、現在、この地域では、駐車可能なスペースとして、2,800台余あることから、概ね充足されているのではないかと考えている。

(事務局) この総合計画は、新市としてはじめて策定するもので、市民の皆さんをはじめ、様々な方々からご意見をお伺いし、より良い計画にしたいと考えており、ぜひとも新市の発展に向けた提言等をいただき、それらを反映させながら、委員の皆さんに承認いただける計画を策定してまいりたい。

また、計画は来年度中に策定することにしており、実質1年余りしかないので、委員の皆様にはご苦勞をお掛けすることになると思う。全体会は、節目ごとだが、部会等は、テーマごとに十分議論をいただく関係上、スケジュール(案)以上に開催することもあるので、ご協力いただきたい。

(委員) 世の中がいろいろ変わってきている。特に人口が減少していくということは重要なことである。2020年には、高齢化率が30%を超える。3人に1人が高齢者になるということは、大変なことだが、変えることができない重要な問題である。

また、現在の市の財政状況はそれほど悪くないが、今後、人口減少に伴う税収の減少等を考慮すると、計画策定方針にもあるとおり、必要性、重要性、優先性、効率性などを十分に認識した上で、できないことまで、計画に書くべきではない。何でも行政にやってもらうという認識を改めなければいけない時代になっている。

行政がすべきことと、市民がやれることを分ける、ある種の「選択」と「集中」が必要である。

一方で、一体感の醸成を図るためには、「多様性」という観点も重要であり、地域特性、様々な文化をいかしたまちづくりが必要となる。

これらに留意した計画づくりが必要になる。

(委員) 成果重視という考え方は非常に有効である。最終的にうまくいったかどうか重要である。このためにも、目標の設定が必要ではないか。

客観的なデータをできるだけ提示していただき、分析することにより、何が問題なのか、いつまでに、どこまでやるべきなのかを議論していく必要がある。

(委員) これまでの前提として、人口増加・拡大指向があったが、今後は、人口減少・緊縮指向となることから、これまでの考え方を大きく変えていかなければならない。20世紀は行政がリーダーシップを発揮して、住民がついていくという構造であったが、これからは、住民ニーズ・意識、多様な意見への対応について考えていく必要がある。産業・観光についても、どこを伸ばしていくべきなのか、その方向性を見極めることが問われている。

今後は、「だれがやるのか」ということをしっかり考えていくことが必要。質問として、「農業関係」については、どのような位置づけとしているのか。

(事務局) 活力部会において、検討していただきたい。これまでの第1次～3次産業として分類するのではなく、新しい産業形態など、様々な角度で産業全般を検討していただきたい。

(会長) この度の審議会では公募委員が10名いることから、順に意見を伺いたい。

(委員) ここまで、成果重視が重要だという意見が多かったが、成果を重視するあまり、大事な施策を潰してしまうことがないようにすべきだ。

(委員) 住み良いまちという観点も大切だが、日本海側の雄都としてどうあるべきか検討していかなければならない。広域性という視点で検討し、進展飛躍する富山市をつくりあげること、結果を伴う政策を実施することが大事である。

(委員) 重点にすべき事項を明確にしておかないと計画づくりが難しいのではないか。最終的に到達すべきイメージをもって取り組むことにより、優先性や重点とすべきものが見えてくるのではないか。

(委員) 新市建設計画には、財源的裏付けがあるのか。

計画の構成として、構想・基本計画・実施計画の三層になっているが、実施計画はどうしていくのか。

人口減少・少子高齢社会においては、高齢者の活用が必要になってくる。

(委員) 合併により大きな富山市が誕生し、薬師岳等を活用した山岳観光の可能性等について検討したいと思うが、成果重視の観点では、実現が難しい施策も多いのではないかと思う。

(委員) 合併後のそれぞれの地域がお互いをどれだけ身近に感じられるかが重要である。ここで議論した結果が、富山市の姿として、各地域のすべての皆さんが感じられるような計画をつくっていかなければならない。

(委員) 団塊世代の定年退職の時期が迫っており、喫緊の課題としての再就職・再雇用の問題に大変興味がある。これらの世代の経験やキャリアをいかに活かしていくかが、今後のまちづくりにおいて重要な課題であると思う。

(委員) 市民と行政の協働が叫ばれているが、市民の立場で参加できる良い機会であったことから、公募委員に応募した。

可もなく不可もなく、あれもこれもでない、特色を持たせた計画づくりが必要である。

既存の施設の有効活用や広報を通じての周知などを図って行くことが重要であるが、行政の施策が必ずしも市民に伝わっていない、空回りしている部分もあると思うので、市民の目で見た意見を伝えていきたい。

(会長) その他意見を求めます。

(委員) 新市建設計画は、合併をスムーズに進めるための計画であり、これらの実施にあたっては、業務量と必要性を十分勘案したうえで、計画を実施する必要がある。

それらについて提言することも、この審議会としての役割であると思う。

また、机上の議論のみならず、現地調査を実施する必要があると思うので、そのような機会を設けて欲しい。

(委員) いかに的確な目標を設定するかが重要である。観光の重要性についての意見が多い様にしたが、まず自分達が自分の住んでいるまちを正確に認識しているのか。そしてそれらを自分達で守っていく。これらの視点を持って、まちづくりに取り組んでいかなければならない。

次世代育成に関する視点が弱いのではないかと感じる。また、県都としての富山市の位置づけを明確にしていく必要があると考える。

(委員) 50年後、100年後の富山市の姿を見てみたい。それらを現実に見ることはできないが、将来像を実現するための計画を着実に実行していけば、将来像が現実のものとなる。

大局的な視点で計画を策定していくべきだと考える。

(委員) まず、富山市を知ること。これは、住んでいる人すべての課題である。これらを次の世代に伝えるためにも、人づくりの仕組み作りを具体的に、わかりやすく作っていく必要がある。

(委員) 市内は歩いて生活するには大変不便。車がないと、どこにも行けない。安心して歩けるまちにしなければならない。

また、ごみ問題や環境対策にも非常に関心がある。

(委員) 富山市は、農産物の生産が大変少なく、県外からの流入が多い。生産者にとって魅力のある、そして緑豊かな富山市であるように願っている。

(会長) まだまだ、発言もあると思うが、各部会において大いに議論していただきたい。

(以上)